

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係（毒ガス問題） 第2次移送(5)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43787">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43787</a>

沖繩(準備委)未電

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

25

大政 外外儀官

務務 典房 電信写

臣官官審審長長

儀総人電厚計

書文会管総

調査長

参企折調

領移長

参領旅査移

ア 参地中東

長 北東西

参北北保

中南審

参一

参西東洋

長 西東

近ア

参書近ア

長 次総経国

参賀統

長 参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

参政技一

総番号(TA) / 8652 主管  
 72年 4月 13日 16時05分 沖 港 発  
 72年 4月 13日 16時25分 本 省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

ヨナグスクでガスもれさわぎ

第223号 平 大至急

1. りゆう警情報によれば次の通り。

(1) 11日22時20分ころヨナグスク村ヤケナ、ヨナグスク村役場東側のヤマネ・キシユンたくにおいて24-5人が集りさけをのんでいたところ、突然、目とはなにのいたみを訴え20分位で回復した。また、同時刻ころ、同家から南200米位離れていたところを歩行中の者が同じいたみを訴えた。

(2) りゆう警が調査したところでは別に米軍側がどくガスを使用した様子もなく、原因不明なる由。

なお、以前西原において兵隊のいたずらにより催るいガスが流れた事件があつたので、この点も調査したが兵隊のすがたを見かけた者もないとの由。

2. 12日付りゆう新ゆう刊及び13日付同紙朝刊は本件を大きく報道しているが、同紙によれば、おき教組中頭支部は「原因は催るいガスではないか」と見、原水協は「米軍のガスもれ」とし、ヨナグスク村当局は「原因不明であ

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

るかとりたして問題とするような性格のものではないと  
 している由である。

3. 13日のウッドサイド報道調整官が三木の照会に回答したところ次の通り。

(1) 米軍は新聞で事実を知り、直ちに調査したが、同地しゅうへんには米軍部隊は駐留して居らず、また当時米4軍の如何なる部隊または兵員も同地しゅうへんに居なかつた。

(2) 従つて本件は米軍とは全く関係無くその原因は不明である。

4. なお、モリヤ、ヨナグスク村役場総務課長は当方照会に対し次の通り答えた。

(1) 同村1952番地付近の住民50-60名がにおいはしなかつたが、目とはなにしげきを感じ、ひどいになるとわさびかたまねぎのしげきを受けたようないたみを感じた由である。

(2) このさわぎも20分位で終り、また影響のあつた範囲も半けい50米位であつた。同地域はホワイト・ビーチに通ずる8号線から1.5キロも離れているので、米軍によるものとは考えられない。

(丁)

(原手文書み16155)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官  
務務典房  
次次  
臣官官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会營給

電信写

総番号(TA) 18848 主管  
72年 月 日 13時50分 沖繩 発 北  
72年 4月 14日 14時16分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

ヨナグスク村ガスもれさわぎ

第224号 平 至急 (ゆう先処理)

往電第223号に関し

/4日在ちゆう米海軍基地隊ホワイト・ビーチ指き官代理  
サンダース少さからフクザワがちよう取したところ次の通  
り。

/、新聞に報道されたガスもれさわぎのあつた//日よる  
、われわれは何の異状も感じなかつた。なお、/2日中村  
ヨナグスク村村長がホワイト・ビーチを来訪し「2週間前  
にも同様のことがあり、だれかゴムタイヤか何かもやした  
ようだが、別に大したことではない」と述べた。

(了)

調査長  
領移長  
参企折調  
参領旅査移

ア 参地中東  
長 北東西  
参北北保  
中南番  
参一  
参西東洋  
長 西東

近ア長  
参書近ア  
経次総経国資  
長 参貿統国  
経協技一理  
長 参政技一理  
条 国企二  
参参協規  
長 参政経科  
情 軍社專  
長 参道内外  
文 参一二

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官  
務務典房  
次次  
臣官官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会營給

電信写

総番号(TA) 18849 主管  
72年 月 日 13時55分 沖繩 発 北  
72年 4月 14日 14時17分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

ヨナグスク村ガスもれさわぎ

第225号 平 至急 (ゆう先処理)

往電第223号に関し

/4日付タイムス(朝刊)は、行政府が/3日現地に担当  
官2名を派遣調査に当たさせた結果、「基地からどくガス  
がもれたとは思われない」との結論を出した旨が報じられ  
ているが、行政府渉外課によれば、上記調査班に加え公衛  
衛生研究所の職員を混えて再調査を近く行なうこととして  
おり、結論は未だ出されていない由。

(了)

調査長  
領移長  
参企折調  
参領旅査移

ア 参地中東  
長 北東西  
参北北保  
中南番  
参一  
参西東洋  
長 西東

近ア長  
参書近ア  
経次総経国資  
長 参貿統国  
経協技一理  
長 参政技一理  
条 国企二  
参参協規  
長 参政経科  
情 軍社專  
長 参道内外  
文 参一二

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

25

大政事外外儀官  
務務典房  
次次

電信写

臣官官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会當給

総番号(TA) 20262 主管  
72年 4月 22日 12時 17分 沖繩 発  
72年 4月 22日 12時 25分 本省 着 米北/

調査長  
領移長

参企析調  
参領旅査移

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

ガス地らい訓練

第240号 略 至急

22日付りゆう新(朝刊)によれば、2/日の参院予算委においてキヤン議員が「勝連村ウキバル島で米軍によるガス地らいの訓練が行なわれている」と指摘し、去る//日ヨナダスク村ヤケナで起つた異状値るい事件との関係を質した趣のところ、22日民政府キヤンペル渉外局長は、海兵隊に照会した結果なりとして当方に対し次の通り回答越した。

(1) ウキバル島は海兵隊の訓練場であるが、キヤン議員が指摘したようなガス地らいの訓練は行なわれていない。最近の訓練は20日に行なわれたが、これは空ほうの発射訓練であつた。(BLANK FIRING)

(2) 同島における訓練と往電第223号のヤケナの事件とは何らの関係もない。

(了)

近ア長経  
参書近ア  
次総経国  
長経協長条  
参資統国  
参政技一理  
国企二  
参参政規  
長国  
参政経科  
長軍社専  
参道内外  
参一

外務省

秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

25

大政事外外儀官  
務務典房  
次次

電信写

臣官官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会當給

総番号(TA) 20267 主管  
72年 4月 22日 13時 25分 オキナワ 発  
72年 4月 22日 13時 39分 本省 着 米北/

調査長  
領移長

参企析調  
参領旅査移

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

ガス地らい訓練

第242号 平 至急

往電第240号に関し

22日勝連村ヨシノ助役からフクザワがちよう取したところ次の通り。

(1) 4-5年前ハマヒガ島小学校のクダカ教師が、はんしよくの実験を目的としてひとつがいのウサギをウキバル島(全島がハマヒガ区の区有地で無人島の由)に放したことがあり、その後ウサギの数が増加しているということである。

(2) 勝連村ハマヒガ区では、10カ年契約(期限は本年6月末まで)で米軍に対しウキバル島を軍用地として貸与している。米軍が同島を使用する際は通常/週間前にその旨村当局に通知があり、去る//日に訓練が行なわれたことは事実であるが、いつも米軍は訓練内容を通報してこないで訓練内容についてはわからない。同区では期限切れのあとも軍用地として貸与(6月以降は1カ年ごとの契約)を希望している。

(3)

近ア長経  
参書近ア  
次総経国  
長経協長条  
参資統国  
参政技一理  
国企二  
参参政規  
長国  
参政経科  
長軍社専  
参道内外  
参一

外務省

六

五

